科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：ヨーロッパ中世史料入門 ILAS Seminar :Introduction to the Sources of European Medieval History			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　佐藤　公美		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	吉田南総合館4階南棟422　佐藤公美研究室			使用言語	日本語
キーワード	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連 / 西洋史 / ヨーロッパ / 中世史 / 史料論						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

本セミナーは、ヨーロッパ中世史の理解を深めつつ、歴史学にとって不可欠の研究対象＝「史料」とは一体どんな性格を持ったものなのかを理解し、史料と向き合い、吟味検証する力を養うことを目的としています。

扱う素材は、中世フランスの哲学者・神学者であるアベラール（1079～1142年）とその恋人エロイーズ（1101―1164）の往復書簡『アベラールとエロイーズ』です。

一体、歴史を理解するとは、どういうことを意味しているのでしょうか。それは遠く離れた地域の、遠い過去を生きた人間が残した史料と、私たちはどのように向き合うことができるのか、という問でもあります。とりわけ、そこで問題になるのが、一見もっとも直接的に時空を超えて人間同士をつなぐかに見えて、その実「分かったつもり」の罠を張って私たちを待ち構える「心」という厄介な代物である場合には。

過去を知るためには、過去の証言である史料を現代人の常識から解き放ち、史料そのものの生成と変容の歴史的文脈の中に返して読まなければなりません。そのためには史料についての学問である史料論を知ることが必要です。

本セミナーはその入り口となることを目指しています。

[到達目標]

１．ヨーロッパ中世史に関する基礎的な事項を理解する。
２．ヨーロッパ中世史料論に関する基礎的な知識を身に着ける。
３．ヨーロッパ中世史を学ぶ際に必要な文献や資料を検索し入手することができる。
４．ヨーロッパ中世の史料を読解するために必要な入門的知識を身に着け、史料に向き合う際にはどのような注意が必要であるかを理解する。
５．４を踏まえてヨーロッパ中世の史料を現代語訳で読解することができる。
６．先行研究における史料解釈を批判的に吟味検証することができる。

[授業計画と内容]

以下の計画にそって授業を進めます。
第1回　オリエンテーション
　報告分担　テキストの入手方法、参考文献、補助資料、レジュメの作成と報告の仕方についての説明
第2回　著者と主人公を知る：アベラールとエロイーズ、人物と時代
第3回　史料を知る：『アベラールとエロイーズ』の構造と歴史

ILASセミナー ：ヨーロッパ中世史料入門(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：ヨーロッパ中世史料入門(2)

第4回　『アベラールとエロイーズ』第１書簡①
第5回　『アベラールとエロイーズ』第１書簡②
第6回　『アベラールとエロイーズ』第２書簡・第３書簡
第7回　『アベラールとエロイーズ』第４書簡・第５書簡
第8回　『アベラールとエロイーズ』第６書簡
第9回　『アベラールとエロイーズ』第７書簡①
第10回　『アベラールとエロイーズ』第７書簡②
第11回　『アベラールとエロイーズ』第８書簡①
第12回　『アベラールとエロイーズ』第８書簡②
第13回　『アベラールとエロイーズ』第９～12書簡
第14回　『アベラールとエロイーズ』解釈の歴史
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告内容、授業への参加状況、授業内での発言などに基づき平常点で評価します。詳細は初回授業で説明します。

[教科書]

アベラール、エロイーズ共著 『アベラールとエロイーズ：愛と修道の手紙』（岩波書店，1939年）
教科書の入手方法については第1回授業で説明します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告担当者は担当部分を熟読し、テキスト以外の参考文献も適宜利用して理解を深め、報告の準備を行ってください。報告に際してはレジュメを作成すること。
また報告者以外も毎回しっかりテキストを読んで参加すること。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィス・アワーは金曜4限です。メールによる連絡は以下のアドレスで受け付けています。

sato.hitomi.5k@kyoto-u.ac.jp

現代人の常識や肌感覚を自明視している限り、私たちはせいぜい100年間地上に存在して消えてゆく「たかが現代人」に過ぎません。
そんな限界を超え、時間と空間を超えて「人間」の懐に飛び込んでみたいと思うなら。ヨーロッパ中世史はあなたの血肉となり、血も肉も越えて力づけてくれるかもしれません。たかが現代、たかが自分を本気で脱ぎ捨ててみたい方、一緒に勉強できることを楽しみにしています。

[主要授業科目（学部・学科名）]